

上級救命講習タイムスケジュール

項 目	内 容	時 間
応急手当の重要性	・ 応急手当の目的・必要性等について	9 : 0 0 ~ 9 : 1 5
異物除去法	・ 腹部突き上げ法(ハイムリック法) ・ 背部叩打法	9 : 1 5 ~ 9 : 3 5
心肺蘇生法 A E D の使用方法	・ 心肺蘇生法の仕方(乳児・小児・成人) ・ A E D の使用方法について	9 : 3 5 ~ 1 0 : 2 0
休 憩		1 0 : 2 0 ~ 1 0 : 3 0
心肺蘇生法 (実技)	・ 乳児の心肺蘇生法 (30分) ・ 小児の心肺蘇生法 (30分) ・ 成人の心肺蘇生法 (30分)	1 0 : 3 0 ~ 1 2 : 0 0
昼 食	・ ビデオ上映(救命処置の手順) 33分	1 2 : 0 0 ~ 1 3 : 0 0
効果測定	・ 心肺蘇生法・A E D 使用法について筆記試験 ・ 心肺蘇生法・A E D 使用法について実技試験	1 3 : 0 0 ~ 1 3 : 3 0 1 3 : 3 0 ~ 1 4 : 2 0
止 血 法	・ 直接圧迫止血法	1 4 : 2 0 ~ 1 4 : 3 0
休 憩		1 4 : 3 0 ~ 1 4 : 4 0
傷病者管理法	・ 保温法 ・ 体位管理	1 4 : 4 0 ~ 1 5 : 0 0
外傷の手当要領	・ 三角巾による包帯法 ・ 骨折時の手当 ・ 熱傷の手当	1 5 : 0 0 ~ 1 6 : 0 0
搬 送 法	・ 一人で搬送する方法 ・ 担架で搬送する方法 ・ 応急担架の作り方	1 6 : 0 0 ~ 1 6 : 5 0
修了証交付		1 6 : 5 0 ~ 1 7 : 0 0

別表第2（第4条関係）上級救命講習

1 到達目標	1 心肺蘇生法を救急車が現場到着するのに要する時間程度できる。 2 自動体外式除細動器（AED）について理解し、正しく使用できる。 3 異物除去法及び大出血時の止血法を実施できる。 4 傷病者管理法、副子固定法、熱傷の手当、搬送法等を習得する。
2 訓練実施基準	1 講習は、実習を主体とする。 2 1クラスの受講者数の標準は、20名程度とする。 3 訓練用資機材一式に対して受講者は、5名以内とすることが望ましい。 4 指導者1人に対して受講者は、10名以内とすることが望ましい。

項目			細目	時間（分）
応急手当の重要性			応急手当の目的、必要性（心停止の予防等を含む。）等	15
救命に必要な応急手当（成人、小児、乳児及び新生児に対する方法）	心肺蘇生法	基本的心肺蘇生法（実技）	反応の確認、通報	285
			胸骨圧迫要領	
			気道確保要領	
			口対口人工呼吸法	
			シナリオに対応した心肺蘇生法	
		AEDの使用法（成人に対する方法）	AEDの使用法（ビデオ等）	
			指導者による使用法の呈示	
			AEDの実技要領	
		異物除去法	異物除去要領	
		効果確認	心肺蘇生法の効果確認	
	止血法		直接圧迫止血法	60
	心肺蘇生法に関する知識の確認（筆記試験）		知識の確認	
	心肺蘇生法に関する実技の評価（実技試験）		シナリオを使用した実技の評価	
その他の応急手当	傷病者管理法		衣類の緊縛解除	120
			保温法	
			体位管理	

	外傷の手当要領	包帯法	
		副子固定法	
		熱傷の手当	
	搬送法	搬送の方法	
		担架搬送法	
		応急担架作成法	
合計時間		4 8 0	

- 備考 1 上級救命講習は、業務の内容や活動領域の性格から一定の頻度で心停止者に対し
 応急の対応をすることが期待、想定される者も対象とし、この場合、2年から3年
 間隔での定期的な再講習を行うこと。
- 2 筆記試験及び実技試験については、客観的評価を行い、原則として80%以上を理
 解できたことを合格の目安とすること。
- 3 訓練用資機材を充実させることによって、受講者一人ひとりが訓練用資機材に接す
 る時間が増えて効果的な講習を行うことができれば、各消防本部の判断により講習時
 間を短縮することを可能とする。